

## 4月の 納税と公共料金

固定資産税(全納・1期)  
軽自動車税(全納)  
水道使用料(隔月)  
下水道使用料(隔月)  
町営住宅使用料  
幼稚園使用料  
保育料

納税と公共料金の納付は、便利で安心できる口座振替での納付をお勧めします。

今月の振替日

**5月1日(月)**

## の 里

4月の休館日 ☎ 27-7774

4日・11日・18日・25日

開館時間：午前9時～午後9時  
(入浴 午前11時～午後9時)

### 「介護相談窓口」のご案内

日時 4月13日(木)  
午後1時30分～4時

### 「ローズカフェ」(認知症カフェ)開催

日時 4月27日(木)  
午後1時30分～3時

場所 介護予防施設「の里」創作室  
参加費 100円  
(別途「の里」入館料が必要です。)

### 「ローズカフェ」の問い合わせ

地域包括支援センター  
☎27-1158



大垣  
ケーブルテレビ

デジタル  
11ch・12ch

[11ch]

#### ●新番組スタート!「寄席チャンネル」

◇毎日午後10時 他  
落語ファン必見! 古典も若手斬家も日替わりで

[12ch]

#### ●地域の情報「デイリーUP」

◇月～金毎日更新 午後6時(1時間おきに再放送)

#### ●園児登場!「げんきはなまる」

◇月～金 午後6時15分 他 ◇土・日 午後7時 他

#### ●視聴者参加「生放送です!メールください」

◇金 午後8時15分

#### ●スポーツ少年団が主役「いくぜ!スボ少」

◇3日(月)～7日(金) 午後6時30分 他

#### ●挑戦型バラエティ「三ツ星クリーン」

◇10日(月)～14日(金) 午後6時30分 他

#### ●ぶらぶら街歩き「里見まさとのご町内探訪」

◇17日(月)～21日(金) 午後6時30分 他

#### ●お店の情報満載「みるチャン」

◇24日(月)～28日(金) 午後6時30分 他

取材依頼  
情報提供を  
お待ちしております。



電話 0584-82-1200 FAX 0584-82-1300

メール johoh@ogaki-tv.co.jp ホームページ <https://www.ogaki-tv.co.jp/>

## 郷土の民話

### 宿屋

四九一

てんでてんでまりてんでまりてんでまりの手がそれて・・・表の通りへ飛んでった飛んでった・・・表の行列なんじゃないな 紀州の殿様お国入り きんもんさき箱ともぞろいお籠のそばにはひげ奴 毛槍をふりふりヤッコラサ・・・昭和二十年代に初めて聞いた童謡『鞠と殿様』の一節です。寛永十二年に徳川家康が制度化した『参勤交代』の為に、各大名は自領地と江戸屋敷とに一年ごとに常駐してました。各大名に勝手なことをさせないように見張ることやお金を使わせて資金力を弱めるのも目的だったようです。その道中にできた宿泊地が本陣で、その近くに脇本陣、またその近くに「旅籠」と呼ばれた宿屋ができ、庶民が使用したのはその旅籠や木賃宿だったようです。話は逸れますが、それ以前の『宿屋』について調べてみました。奈良時代には旅館らしきものができていたようです。当時の旅は命がけだったので、奈良の僧侶が無料宿泊施設を創設したのが旅館の始まりと言われています。平安時代になると、遠くまで参詣の旅をする風習が生まれて、旅館が作られるようになったそうです。しかし大きく変容したのは江戸時代で、戦のほとんどない時代が三百年続いたことで、人々が旅をする習慣ができたことに加え、参勤交代に関わる人達も多く利用したので、各街道沿いに旅籠がなくなっただけで旅籠の数も少なくなっただけで、同時に木賃宿と呼ばれた宿も次々に姿を消していったようです。木賃宿は燃料代(薪)だけで宿泊できる宿という意味から付いた名称と聞いています。

私が子供の頃に、二階に大きな出窓があつてその先端に手すりを廻らせた立派なお家がありました。気になって父に尋ねたら「あそこは昔、木賃宿をやつてござつたでな」と言いました。続けて明治生まれの父の思い出話です。いつもいるんな人が泊まってござつたなあ。ある雨の降る日に、いつもの場所に若い衆が集まって花札や腕相撲をしとつたら、その宿の人が来て「今、俺んとこに猿回しの人泊まってござるけど、雨で仕事にならへんで、うちで猿回しをやつてくれるで見に来んか」と言つてくれたので「ほんなら行つてもいいけど、いくら払えばいいんや」と聞くと「一銭でも一厘でもええわ」というので、重い腰を上げてその宿に向かいました。三×四メートル程の土間で親方が太鼓をたたいたり歌つたりして猿が芸を披露し、最後のメインイベントは当時人氣のお芝居『阿波の鳴門』でした。幼い時に別れた母を探して巡礼をする娘が母とは知らずに巡り会う名場面です。親方に「かかさまの名は」と問われた猿の巡礼が「あわのおゆみと申します」と答えるしぐさをします。娘から転じて母を演じる猿が、手で顔をこすつて泣いているもう片方の手でお尻をかいていて、皆が大笑いでした。芝居も終わりお客がお金を投げると、再び猿が大活躍して、一生懸命に金を拾い集めるのがおかしかった、と話す父は思い出しても笑つてしまふほど楽しつたのでした。父は明治三十四年生まれですので、大正になつてからのことだつたと思います。六十数年前に聞いたことなので、真偽の程は定かではありません。

郷土の民話は、今回で最終回となります。長らくのご愛読をありがとうございました。

高橋 甚彌